
原著論文

スポーツ情報戦略に関する一考察Ⅴ
ー情報戦略の視点から見た第1回ユースオリンピックゲームズー

久木留 毅¹⁾、山下修平²⁾、白井克佳²⁾

Study of Sports Intelligence Strategies V
Discussions on The 1st Youth Olympic Games from
the perspectives of Intelligence and Strategic Planning

Takeshi KUKIDOME ¹⁾, Shuhei YAMASHITA ²⁾, Katsuyoshi SHIRAI ²⁾

Abstract

The 1st Youth Olympic Games 2010 (YOG) was held in Singapore from August 14 to 26. This study reviewed the background behind the establishment of the YOG and analyzed the strategies of the International Olympic Committee and Singapore toward and through YOG. We then carried out the discussion on the strategies Japan should consider for effectively utilization of the YOG as one of the pathways for a long-term athlete development. Finally, the recommendations were drawn as following; a) Japan needs a strategic planning to win medals in YOG as a pathway for the future Olympic Games, b) in conjunction with the elite coach development programs, coach should be recognized as an important role within YOG, c) Japan Olympic Committee (JOC) should provide educational program prior to YOG as its responsibility, d) JOC needs to develop the strategy around YOG for performance enhancement, e) it is essential to consider hosting YOG as international strategy.

Key words : Youth Olympic Games, International Olympic Committee, Singapore

キーワード : ユースオリンピックゲームズ、国際オリンピック委員会、シンガポール

1) 専修大学社会体育研究所

Health and Sports Sciences Institute, Senshu University

2) 国立スポーツ科学センター

Japan Institute of Sports Sciences

はじめに

2010年8月国際オリンピック委員会（以下IOC）は、新しい国際総合競技大会を新設した。対象者をユース世代（14歳～18歳）とした大会名は、ユースオリンピックゲームズ（以下YOG）と命名された。YOGの招致には2007年8月に9都市が立候補し、11月に5都市に絞られ2008年1月にモスクワとシンガポールの2都市に絞り込まれ、2月2月のIOC委員の郵送投票の結果、最終的に第1回目の開催都市がシンガポールに決定した¹⁾。

2007年に中南米のグアテマラで開催された第119次IOC総会において、2014年冬季オリンピックがロシアのソチに決定していたこともあり、シンガポールが有利に招致戦略を進めた可能性が高い。さらに、YOGを文化・教育とスポーツが融合した新しい大会にしたいとの意向もあり、教育に国を上げて力を入れているシンガポールが選出されたのも偶然ではないであろう。

国立スポーツ科学センター（以下JISS）は、2008年12月よりシンガポールへの調査を開始した。シンガポール・スポーツ・スクール（以下SSS）とスポーツ省、教育省そしてシンガポールユースオリンピック組織委員会（以下SYOGOC）とのミーティングを持ち、YOGで実施される「文化教育プログラム（以下CEP）」について最新の情報を収集していた²⁾。その後、2009年6月にYOGのプレ大会として開催されたアジアユースオリンピックゲームズが開催された³⁾。その後も視察と、SSSやスポーツ省、教育省スタッフとのミーティングを開催しYOGの情報収集に努めた。

日本では2000年に文部科学省から出されたスポーツ振興基本計画⁴⁾を受けて、日本オリンピック委員会（以下JOC）がJOC Gold Plan⁵⁾を作成し国際競技力向上策を具現化してきた。その中において重点施策の一つが、ユース世代から代表選手までを一貫して指導して行く体制の整備であった。また、2004年にはタレント発掘育成事業⁶⁾が地域で始まり一貫した指導体制の整備が急速に進みだした。さらに、JOCは2008年に開設した味の素ナショナルトレーニングセンター（以下

NTC）内にエリートアカデミーを設置し将来のオリンピック選手の育成に本格的に取り組みだした⁷⁾。

日本の一貫した指導システムを完成させるためには、年代に応じた国際競技大会への参加も重要な要因となる。そこで、YOGをどの様に位置づけていくのか中長期的な戦略が必要となる。戦略構築のためには、情報が必要であることは言うまでもない。

我々は、競技スポーツにおける情報戦略について以下のように定義付けを行った。

「競技スポーツにおける情報戦略とは、意志決定者が正しい、理にかなった判断・決断をするために『情報』を収集・分析・加工し、提供すること。その結果、意思決定者が決断をくだし物事が動いていく一連の過程をいう」

そこで、本稿では情報戦略の視点からYOGに関する分析報告を行うことを目的とした。

1. YOG 設置の背景

2010年8月、IOCは新しい国際大会を始めた。YOGは、現IOC会長のジャック・ロゲが提案した大会であり、彼の強い要望により実現したことが知られている⁸⁾。彼は、ユース世代における大会の重要性を認識し、1990年代ヨーロッパオリンピック委員会の会長時に「ヨーロッパ・ユースオリンピック・フェスティバル」を創始した⁹⁾。この大会は当初2年おきに開催されていたが現在は、1年おきに開催されている。ジャック・ロゲの発言から、オリンピックを通した若者の教育に関する思い入れを感じ取ることができる¹⁰⁾。

2007年第119次IOC総会（グアテマラ）において、ユースオリンピックの開催が満場一致で正式決定された。この時、彼は総会で「オリンピックが若者への夢と教育的価値を持つことを示すためにはYouth Olympic Gamesが必要である。オリンピックには若者を育てる教育的価値を持つ、これこそがオリンピックの原点である」というコメントを出した¹¹⁾。

YOGの開催には、世界的な問題となっているスクリーン病¹²⁾への考慮もなされていた。現代の若

者たちは、ちょっとした時間があると携帯を開いてメールをして、移動中にはゲームを持参し実施する。さらに、家に帰るとテレビを観てゲームをする。常にスクリーンを観ていることになる。スクリーン病の害として運動不足は深刻である。子供の運動能力低下は、肥満につながり多くの病気を併発することが知られている⁸⁾。

IOC が新しい大会を創設するのは、1924 年に開始された冬季オリンピック以来となり、YOG に対するジャック・ロゲ会長の強い思いが感じられる。

1-1 近年の国際オリンピック委員会 (IOC) の動向 (表 1)

国連は、2000 年 9 月に開催されたミレニアム・サミットにおいてミレニアム宣言を採択した。国連ミレニアム宣言と 1990 年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめられたものがミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) である⁹⁾。2015 年を達成期限としているため、多くの協力が必要となっている。国連は、その一つとしてスポーツの力に着目し IOC への接近を進めた可能性が考えられる。

2001 年、ヨーロッパオリンピック委員会委員長であったジャック・ロゲは IOC 113 次総会で会長に選出された。この時から YOG の構想を持っていた可能性が高い。その様に考えられる理由としては、若者のオリンピックへの参加について危機

感を持ちヨーロッパオリンピック委員会の会長時代にヨーロッパオリンピックフェスティバル⁵⁾を創設していたからである。

その後、2007 年中南米のグアテマラで開催された IOC 119 次総会において、ジャック・ロゲは YOG の承認を満場一致で取り付けることに成功した。2008 年 2 月、YOG の開催地がシンガポールに決定した¹⁰⁾。

2009 年 10 月に開催された IOC 121 次総会では、IOC オリンピック kongress の提言 (社会におけるオリンピック・ムーブメント) がなされた¹¹⁾。

2009 年 10 月には、IOC は国連のオブザーバー資格¹²⁾を得た¹²⁾。これにより、国連のミレニアム開発目標へのスポーツを通じた協力を公に進めるための体制が整った。さらに、2010 年 5 月、国連 - IOC 第 1 回合同フォーラムをスイス・ローザンヌで開催し、スポーツを通じて開発の分野での協力を強化することを確認した¹³⁾。また、このフォーラムにおいて、8 つの国連のミレニアム開発目標の内、5 つについてスポーツが協力できる可能性が示唆された (表 2)。

IOC はこれらの一連の流れにより、国連との繋がりを強固なものへとしていく戦略に成功したと言えるであろう。

1-2 シンガポールという国の背景

シンガポールは 1965 年にマレーシアから独立した人口約 500 万人の国土の小さな天然資源のない

年	
2000年	国連 ミレニアム宣言
2001年	IOC 113次総会でジャック・ロゲ会長誕生
2007年	IOC 119次総会 YOG開催を承認
2008年	YOG開催地決定 (9都市が立候補:シンガポールへ)
2009年	国連のオブザーバー資格を得る
2009年	IOC 121次総会 IOCオリンピック kongress の提言
2010年	国連 - IOCフォーラム開催
2010年	第1回YOG開催(シンガポール)

表1.近年の国際オリンピック委員会の動向

国連のミレニアム開発目標
(2015年までに達成すべき8つの目標)

※太字はスポーツが関与できる目標とした。

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅	5. 妊産婦の健康の改善
2. 初等教育の完全普及の達成	6. HIV/エイズ、マラリア、 その他の疾病の蔓延の防止
3. ジェンダー平等推進と女性 の地位向上	7. 環境の持続可能性確保
4. 乳幼児死亡率の削減	8. 開発のためのグローバルな パートナーシップの推進

国である。その中において、人材こそが資源であるとされてきた。

シンガポールは、多様な文化により構成されている国である。3大民族は、中国人、マレーシア人、インド人である。宗教は、道教徒と仏教徒が全体の51%、イスラム教が15%、キリスト教15%、ヒンズー教4%であり、多民族、多宗教の国である。

ハーバード大学のリチャード・ヴィートー教授によれば、シンガポールを独立に導いた初代首相のリー・クアンユーは、40年間の首相時代に「死にもの狂いの戦略」で世界の中でも類を見ない発展モデルを構築し、次々と後退、衰退していく世界の国々のなかで、まだ時代遅れになっていない戦略を持つわずかな国の一つと評価されている¹⁴⁾。

リー・シェロン首相は、ホームページ上に以下の声明を発表した。「ユースオリンピックゲームズの誘致は、極めて重要な試みである。第1回のユースオリンピックゲームズの開催ということでシンガポールは国をあげて全力を尽くす」¹⁵⁾ 一国の首相がこのような声明を出すところに、シンガポールにおけるスポーツ政策の重要制を垣間みることができる。

シンガポールは国土が小さく、天然資源のない国であり、人材こそが資源であるとされてきた。だからこそ教育に非常に力を入れていることが理

解できる。その国において、IOCが提唱したスポーツを通して人材を育成する新しい大会であるYOGに共鳴し招致に立候補したことは自然な流れだったのかもしれない。SYOGOCとのミーティングでは、「Nation Building」「Champion in Life」という言葉を多く聞いた。このことは、シンガポールがスポーツを通じて人材育成し、スポーツを通じて人生の勝者を育成していこうという姿勢を表すものである。さらにミーティングの最後に「参加するアスリートとコーチに、文化・教育プログラムをいかに理解してもらえるかが、YOG成功の重要なポイントである。ユースオリンピックゲームズはオリンピックの様に勝利を目指して、ハイテクを駆使して戦うといったものだけではない。教育的、文化的プログラムも含めてユースオリンピックが成り立っている。これを必ず日本で選手、コーチに伝えてもらいたい」と彼らは言った。

2. ユースオリンピックゲームズ

2-1 大会の内容

IOCが創設したYOGの第1回夏季競技大会は、2010年8月14日(土)～26日(木)の期間シンガポールにおいて開催された。対象となった参加競技者は、年齢が14歳から18歳の若者であった。

YOG には、205 国・地域から 26 競技 201 種目に 3,528 名の競技者が参加した。日本は、71 名（男子 25 名、女子 46 名）の競技者が 16 競技に参加した（写真 1: ポスター）。

写真 1



YOG のキーワードは「卓越 (Excellence)」「友情 (Friendship)」「尊重 (Respect)」という 3 つのオリンピックの価値である。初めての大会ということで、参加国・地域には多くの不安もあったことは否めない。それを象徴する出来事としては、アメリカが競泳、自転車、射撃の選手団を派遣しない可能性があるとの情報が、2009 年 9 月の Channelnews asia.com に掲載された¹⁵⁾。理由は、大会がオリンピック教育に力を入れたものであり競技を軽視しているとの見解からである。強豪国アメリカの不参加は、他の参加国・地域に大きな影響を与えると考えた IOC や SYOGOC は、ユース世代のアスリートにとって最高の舞台であり、

さらにオリンピック教育にも力を入れている新しい大会であることを強調した¹⁶⁾。この様に YOG は開幕前に様々な憶測を呼んだ大会であった。

しかし、閉幕後の記者会見において IOC 会長のジャック・ロゲは、「わたしの高い期待を上回る大会になった。シンガポールは 2 年間の準備期間で素晴らしい運営を実現した」¹⁷⁾と総括した。

今大会の課題として一部競技や一部の国・地域で最有力選手が出場しなかったことを認め、「各国オリンピック委員会 (NOC) の中にはユース五輪の重要性を過小評価し、トップ選手を出さなかったところもあるが、次回は違うだろう」¹⁷⁾と指摘した。

2-2 文化教育プログラム (CEP)

YOG の最も特徴的なプログラムであり、これが成功するかどうか大きなキーポイントであった。CEP の成功のための評価については、SYOGOC とシンガポール教育省が連携しユーススポーツカンファレンス等においてプログラムの分析を繰り返し高品質化に向け準備を行った。

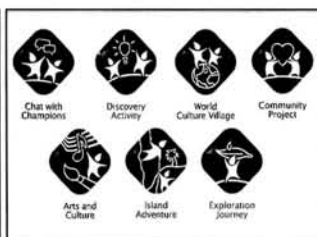
YOG は、「オリンピズム」、「能力の発達」、「健康で幸福なライフスタイル」、「社会的責任」、「豊かな表現」という 5 つの教育的テーマを支柱として、7 つのフォーマットで構成され全体で 50 以上の活動プログラムが準備されていた¹⁸⁾（図 1）（写真 2,3）。

図 1

YOG の 5 つの教育的テーマ

- オリンピズム
 - 能力の発達
 - 健康で幸福なライフスタイル
 - 社会的責任
 - 豊かな表現
- 5 つの教育テーマを 7 つのフォーマットで構成し、全体で 50 以上の活動プログラムが準備されていた。

7 つのフォーマット



Culture & Education

<http://www.singapore2010.sg/public/sy2010/en.html> から作成

写真2



選手村におけるカルチャー・エデュケーション・プログラム(CEP)

2-3 オリンピックとの違い

2008年に開催された北京オリンピック(夏季大会)は、204カ国・地域から28競技302種目に11,193名の競技者が参加した。参加者数を第1回YOGと比較した場合、約3倍の参加者数であることができる。そのためオリンピックは、選手村、競技会場、輸送、ボランティア数等々も合わせて肥大化し総予算も増大することが理解できるであろう。しかし、逆の見方をすればYOGは、肥大化したオリンピックを招致することができない都市にもオリンピックに触れる機会を与えることになるとも言えるであろう。

また、YOG参加者は、競技大会期間中を通して滞在しなければならない。さらに、文化・教育プログラムへの参加を促される点も大きな違いである。理由としては、YOGという大会のビジョンが、スポーツと文化、教育を統合するイベントとすることにあるからである。

3. スポーツにおける国際戦略

3-1 YOGを通して考える国際戦略

前述の通りYOGは、次世代の若者を対象とした新しい形のオリンピックである。一般的にオリンピックに出場するアスリートとコーチは、出場する競技・種目が開催される期間のみ現地入りし終われば帰国する。しかし、YOGでは参加するアスリートとコーチは、全日程期間選手村に滞在

写真3



選手村の外でのCEP(文化/競技の紹介)

することを義務づけられた。さらに、多くのCEPへの参加も促されていた。当初、全日程の参加は、多くの国や地域からも疑問の声が上がった。しかし、YOGは、スポーツと文化、教育を統合するイベントとすることを目的としており、さらにYOGのキーワードは「卓越(Excellence)」「友情(Friendship)」「尊重(Respect)」という3つのオリンピックの価値であったことを考えた場合、全日程参加する事で初めてこれらを体験し具現化できると考えられていた。

今後、参加者を対象とした調査が公表されるであろうが、日本から参加したユースアスリートからは、参加して良かったとの意見も聞いた。他国の参加者とコミュニケーションをとるために英語の必要性について話すユースアスリートもいた。さらに、異文化の大切さを感じているユースアスリートもいた。

これらのことから考えると、YOGの新しい試みであるCEPは、大きな意義があったことになる。また、ユースアスリートだけでなく国内外のコーチやNOCの事務局スタッフにも話を聞く機会があり、ここでもYOGに対する多くの賛同の意見があった。

また、今回の大会にはJOCエリートアカデミーの1期生が二人参加し優勝した。この結果は、今後JOCの戦略に大きな影響を与えることになるだろう。さらに、全国で行われているタレント発掘育成事業を展開している地域の中で、福岡県と東

写真4



YOG 各種競技・種目

京都が子どもたちを現地に派遣し、子どもたちは多くの刺激を受けたようだ。これらのことからYOGは、日本のスポーツにおける将来の戦略にも影響を与えることが予想される（写真4）。

3-2 開催国シンガポールの戦略

2010年の夏季大会には当初9都市が立候補し、最終候補地にはモスクワとシンガポールが残り投票の結果、開催地がシンガポールに決まった。

シンガポールでは、2001年に自治・青年・スポーツ省より、「スポーツ振興に関する提言」が出された『Report of the Committee on Sporting Singapore: COSS Report (シンガポールのスポーツ振興政策)』が出された¹⁵⁾。この政策の中で、国民が一丸となって応援できるスポーツヒーローを育成し、国民としての誇りを再確認するとしている。

3-2-1 スポーツハブ構想

スポーツハブ構想については、JISS 情報研究部のプロジェクトにおいて、3回の渡航(2008年12月、2009年6月、2010年8月)でシンガポール・スポーツ・カウンシル(SSC)スタッフやスポーツ省スタッフから直接話を聞くことができた。

シンガポールでは、スポーツを新たな成長戦略と捉えハブ空港、金融ハブ、観光ハブ等に続くスポーツハブ構想を持っていることが明らかになった(写真5)。

彼らは、モータースポーツであるフォーミュラワン(F1)を始めとして多くの競技における世界

写真5

Sports Hub - 2014 構想



大会を誘致している。それは、スポーツ競技大会を誘致することで国益に繋がると考えているからである。YOGについても同様であることが前述の通り理解できるであろう。しかし、これらの大会は年に1度の開催であり常に新しい大会の誘致を続ける必要がある。さらに、これらのイベントと合わせてスポーツ施設や隣接したスポーツ医科学施設、宿泊施設を作ることで年間を通してより確実に国益を上げる戦略を構想している。

3-3 国際オリンピック委員会の戦略

IOCは、前述した通りスクリーン病に見られるような若者のスポーツ離れとオリンピックの根本原則に基づいた若者の教育に沿って新しい戦略を立て、YOGを創設したことは間違いのない事実である。しかし、それだけではないであろう。オリンピックがサッカーワールドカップと並ぶビッグスポーツビジネスであることは、周知の事実である。中でも放映権料は、年を追うごとに上昇している。2008年に開催された北京オリンピックの放映権料は、約2,030億円、1996年に開催されたアトランタオリンピック時が約1,069億円であることからこのことが理解できる¹⁹⁾。放映権料は、サッカーワールドカップと同様に今後も上昇が続く可能性が高い。

2009年10月に行開催された第121次IOC総会の上の2016年夏季オリンピック招致においてIOCは、世界のリーダーとされているアメリカの大統

領を呼び出すことに成功しメディアの注目を集めた²⁰⁾。このことで、オリンピックがスポーツだけでなく大きな影響力を持つことを全世界に示した。さらに、そのアメリカ・シカゴを立候補都市の中で最初に落選させたことで、メディアを通じて公平性をアピールすることにも成功した。

これらのことからIOCは、オリンピックのビジネス的な価値を上げる戦略に成功したと言えるであろう。

我々はこの一連の流れから、オリンピックがオリンピズムに基づく崇高な理念に則ったイベントであるとともに、入念な戦略に基づいたビッグスポーツビジネスであることも改めて理解した。その上で、オリンピック招致の意義を国益と合わせて考え、国を上げて戦略的に取組む必要がある。

スポーツの価値を社会のあらゆる分野に提供するという観点から考えた場合、スポーツ以外の世界へのコミットは大きく評価するべきであろう。ただし国連にコミットすることでオリンピックのビジネス的な価値も向上する点も忘れてはならない。

これらのことからIOCの戦略には、オリンピズムの根本的原則に則った永続的な繁栄とビジネスの拡大がある点を理解しておくことが重要であろう。

3-4 国際動向の中で考える日本の戦略

オリンピックに一度でも参加した者や観戦に行った者は、YOGを観戦し多くのことに気づく。競技会場は、オリンピックをコンパクトにしたものである。規模は小さいがアクセシビリティカード(ADカード)やメディアセンター、輸送、そして選手村の作りもオリンピックそのものである。

このことをビジネスという観点から考えた場合、オリンピック招致には立候補できないがYOGであれば立候補できる都市を増やすことで、IOCとしてはビジネスを拡大することに繋がると考えられる。このこと裏付けるように、大会の後半にIOCはアメリカ、アフリカ、南米を含む17か国が将来ユースオリンピック(YOG)を開催することに関心を示したと発表した^{21,22,23,24)}。

ここでも若者へのオリンピズム教育と最高の舞台における場の提供という観点と、新しいビジネ

ス開拓にむけたIOCの戦略を垣間みることができる。

さらに、YOGのプログラムには、国連へのコミットを裏付けるように選手村の中でCEPプログラムの一環として、国際連合エイズ合同計画(UNAIDS)、国際連合環境計画(UNEP)、国際連合児童基金(UNICEF)がワークショップを展開した。これらのことは、IOCが国連への関与を含む新ビジネスの開拓戦略を考えている可能性を示唆しているであろう。

これらのことから、日本としてYOGにどの様に関わっていくのかについて考えることが重要となる。また、多くの競技を視察し得た情報と、参加したアスリートやコーチからの情報を基に総合的に考えた場合、参加するだけでなくメダル獲得に拘ることが必要であることが示唆された。勝利は何ものにも代え難い多くの恩恵をジュニア層のアスリートに与える。YOGは、ジュニア層のアスリートに国際的な視野を広げる機会を与え、社会のロールモデルとは何かを考える環境として適切である。JOCとしては、国際競技力向上の推進と同時に本稿で示したYOGの二つの側面を理解した上でジュニア層のアスリートに何を学ばせるのか、どの様に学ばせるのかを検討していくことが重要である。

まとめ

- 1) 将来のオリンピックに繋げる大会である以上、勝利に拘る必要がある。
- 2) 帯同するコーチが重要な役割を持つ(コーチ養成システムとの連動)。
- 3) NOCとして派遣前のユースアスリートに対する教育が不可欠である。
- 4) NOCとしてYOGをどの様に位置づけていくのか、戦略が不可欠である。
- 5) 国際戦略としてYOG招致を考える必要がある。

本稿の情報は、国立スポーツ科学センタースポーツ情報研究部ユースオリンピックに関する選手育成の在り方検討プロジェクト(スポーツ情報

事業)により収集することができた。

注

- 注1 スポーツ振興法に基づき作成された計画。我が国におけるスポーツの振興について、10年単位で作成された計画。財源の根拠はスポーツ振興投票くじとした。2006年度に見直しを実施した。
- 注2 スポーツ振興基本計画に則り国際競技力向上面の中長期プラン。2005年度にJOC Gold Plan Stage IIを作成した。
- 注3 2004年に福岡県で開始した事業。当初は小学校3年生4年生を対象として運動能力の優れた子どもを発掘して育成する内容で始められた。現在では全国に広がり約26の都道府県や市町村で実施されている。
- 注4 2008年4月入学の中学1年生、2年生を対象に卓球とレスリングで開始した。現在は、フェンシングも加わりジュニア代表選手を多く輩出している。
- 注5 現代の多くの子どもに見られる現象。多くの子どもが携帯電話、テレビゲーム、携帯ゲーム、テレビ等スクリーンを見て遊んだり、会話をしたりしている。その結果、傾向として運動量が少なく肥満の子どもが増える原因の一つとされている。
- 注6 オブザーバーは議決での投票権はないが発言権があり、国際赤十字や欧州連合(EU)もこの資格を有している。

参考文献

- 1) International Olympic Committee. REPORT OF THE IOC PANEL OF EXPERTS 1st Summer Youth Olympic Games in 2010., 2010
- 2) International Olympic Committee. REPORT OF THE IOC EVALUATION COMMISSION 1st Summer Youth Olympic Games in 2010., 2010
- 3) 国立スポーツ科学センター, 国立スポーツ科学センター年報 2009, pp65, 2009.
- 4) Olympic Council of Asia. Asia Youth Games[online]. Available from URL: <http://www.ocasia.org/Game/GamesL1.aspx?GPCode=10> [Accessed 2010 Sep 30]
- 5) The European Olympic Committees, The European Youth Olympic Festival[online]. Available from URL: <http://www.eurolympic.org/en/sport-events.html> [Accessed 2010 Sep 30]
- 6) Beijing Olympic Games Organizing Committee. IOC to introduce Youth Olympic Games in 2010[online]. Available from URL: <http://en.beijing2008.cn/50/19/article214041950.shtml> [Accessed 2010 Sep 30]
- 7) International Olympic Committee, Speech by the IOC President Opening Ceremony of the 119th IOC Session Guatemala City[online]. Available from URL: http://www.olympic.org/Documents/Reports/EN/en_report_1200.pdf [Accessed 2010 Sep 30]
- 8) 文部科学省中央教育審議会, 子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申), 2002年9月30日.
- 9) 外務省, ミレニアム開発目標 [online]. Available from URL: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html> [Accessed 2010 Sep 30]
- 10) International Olympic Committee. Factsheet Youth Olympic Games[online]. http://www.olympic.org/Documents/Reference_documents_Factsheets/The_Youth_Olympic_Games.pdf [Accessed 2010 Sep 30]
- 11) International Olympic Committee. Olympic Congress 2009[online]. Available from URL: <http://www.olympic.org/en/content/The-IOC/IOC-Sessions/Olympic-Congress-2009/>,

2010. [Accessed 2010 Sep 30]
- 12) International Olympic Committee. IOC becomes UN observer[online]. Available from URL:
<http://www.olympic.org/en/content/Media/?CalendarTab=1¤tArticlesPageIPP=10¤tArticlesPage=9&articleNewsGroup=-1&articleId=73851>[Accessed 2010 Sep 30]
- 13) AROUND THE RINGS, First UN-IOC Forum in Lausanne[online]. Available from URL: <http://aroundtherings.com/articles/view.aspx?id=34808>[Accessed 2010 Sep 30]
- 14) リチャード・ヴィートー, ハーバードの「世界を動かす授業」, pp41-56, 徳間書店, 2010.
- 15) Ministry of Community Development, Youth and Sports, Singapore Government. REPORT OF THE COMMITTEE ON SPORTING SINGAPORE [online]. Available from URL:
[http://www.mcys.gov.sg/MCDSFiles/download/Sporting%20Singaporeet%20Report%20\(Dailed%20Version\).pdf](http://www.mcys.gov.sg/MCDSFiles/download/Sporting%20Singaporeet%20Report%20(Dailed%20Version).pdf) [Accessed 2010 Sep 30]
- 16) Channel News Asia. IOC hopes US teams will re-consider YOG pull-out[online]. Available from URL:
<http://www.channelnewsasia.com/stories/singaporelocalnews/view/1011625/1/.html> [Accessed 2010 Sep 30]
- 17) Singapore2010 Youth Olympic Games Official Site. Beyond expectations[online]. Available from URL:
http://www.singapore2010.sg/public/sg2010/en/en_news/en_stories/en_20100827_beyond_expectations.html [Accessed 2010 Sep 30]
- 18) 日本オリンピック委員会, 第1回ユースオリンピック競技大会(2010/シンガポール)関係資料集/事前調査報告書, 2010.
- 19) International Olympic Committee. Olympic Marketing Fact File., pp22-38, 2010.
- 20) CNN. Obama, Chicago come up short in Olympics bid[online]. Available from URL: http://articles.cnn.com/2009-10-02/politics/denmark.olympics.obama_1_michelle-obama-senior-adviser-david-axelrod-white-house?_s=PM:POLITICS [Accessed 2010 Sep 30]
- 21) insidethegames.biz. "Exclusive: US will measure success at Youth Olympics in more than medals claims Blackmun"[online]. Available from URL:
<http://www.insidethegames.biz/youth-olympics/singapore-2010/10294-exclusive-us-will-measure-success-at-youth-olympics-in-more-than-medals-claims-blackmun> [Accessed 2010 Sep 30]
- 22) xinhuanet, "London Olympics to continue young cultural and education program" [online]. Available from URL:
http://news.xinhuanet.com/english2010/sports/2010-08/15/c_13445911.htm [Accessed 2010 Sep 30]
- 23) asiaonenews, "Dutch want to host Youth Olympics" [online]. Available from URL:
<http://news.asiaone.com/News/Latest%2BNews/Sports/Story/A1Story20100815-232192.html> [Accessed 2010 Sep 30]
- 24) Sports Illustrated, "IOC: Many nations want to host Youth Olympics" [online]. Available from URL:
<http://sportsillustrated.cnn.com/2010/olympics/wires/08/21/2090.ap.oly.youth.oc/index.html> [Accessed 2010 Sep 30]